

#01-1 「在り」という場から始める

© kentahasegawa



先日、NPO劇研の新社務所となる建物「在り」にて、「まちづくりや文化・芸術について自由に語る会（仮称）」がスタートしました。

「在り」は留学生向けの古い2階建てのアパートをリノベーションした、アトリエやオフィスが集まる建物で、芸術系のいくつかの団体・個人が工房やオフィスとしてすでに使用しています。建物1階にはキッチンも備えた共用部屋もあって、当日はそこに、住人の方や、デザイナー、建物のオーナー、左京区役所の地域づくり事業「左京朝カフェ」に関わる方、大学の先生、そしていきせん職員の方々が集まって行われました。

まずは、それぞれ話したいテーマを出し合ったうえで、今回は「ステキな街のイメージとは？」というテーマを選び、左京区の例を挙げながら意見を交わしました。

その会を振り返りながら、会の発起人でありセンター長でもある杉山準さんにお話を伺いました。

#01-2 インタビュー 杉山 準 さん



「この会を始めようとしたきっかけを教えてください。」

元々私たちNPO劇研は、アトリエ劇研という劇場を運営し、演劇やダンスに特化した事業を行ってきました。なので、その方面の人脈はたくさんあったのですが、2011年にいきいき市民活動センターを指定管理するようになってから、今までのジャンルを越えた様々な人たちとの繋がりができました。それがとても刺激になったことがきっかけです。芸術関係者ばかりでなくいろいろな人たちと話をすることで、演劇やダンスがまちづくりや他のことにもっと活かされるんじゃないか。そして、互いのメリットとなるような関係性が築けるのではないか、ということを考えてようになりました。

少し前にも左京区のような人々とまちづくりをテーマとした話し合いの場を設けたことがあり、それが面白かったです。こういうことを定期的にできたらいいな、と。それで新社務所に移るタイミングで、新たな拠点にもなるべく人が集う場所にしたというのもあって「在り」で会を開催していくことになりました。劇場では毎週たくさんの方が集っていましたがね。

「杉山さんにとって、ステキな街のイメージは？」

魅力的な人が集う街、でしょうか。景観や街の雰囲気、住みやすさなど、色々な条件があると思うのですが、それぞれに作用しあって街のイメージが作られる。景観を大事にする人は、景観のいい街に集まりますし、文化が盛んな街にはそういう人が集まってくる。ある価値観を分かち合える人がたくさん住む街は魅力的だと思います。

「会で印象に残ったことはありますか？」

左京区の魅力を中心に意見が上がっていました。懐が広い・面白い発想を持った人が多く、雑然としているのを魅力的に見せることができる人が多い・古いものをうまく生かしながら変えちゃうような力がある、など。その中で「在り」は元々、留学生向けの学生寮だったという話が残っています。部屋の改装など、留学生の要望に対してなるべくやりたいようにさせてあげたい、と。そして、左京区はお店とお客の垣根がほとんどないという印象が残っています。いろんなお店でイベントをやっているし、例えばライブができる店を数えたらどれだけあるんだっけ、という。

確かにお店の作り手が好きなことをやって、それなりに幸せそうにしている。それがいいと感じます。

「今後の構想についてお聞かせください。」

ゆったりとした関係が、何かのきっかけで次々と繋がって形になっていくときがあります。最初から意図してやると、どうもうまくいかない。自然発生的に繋がっていったときのほうが強度の強いものが生まれる気がします。

今まで7年間、いきいき市民活動センターの運営に携わってきましたが、一番「繋がった」と感じた瞬間は、錦林の盆踊り大会が生まれた時です。地元の要望に応える形で、地域のお祭りを地域と共に開こうと考えていた時、ミュージシャンでもある職員が「盆踊りはどう？」と。私自身盆踊りを行う発想はなかったのですが、それを地元で伝えたところ「いい音頭取りを知っている」と。そしてその人は、先ほどの職員が（面識はなかったけれど）注目していた人で、パパパッと繋がって。それがこの事業に非常に協力的に繋がっていった。音頭取り名人」の志賀國天寿さん。そういった瞬間が生まれる緩やかな繋がりが、プラットフォームを継続していかたいいなと思っています。焦らず積み重ねていけたらと。

#01-3 「在り」に関わる周辺の情報

ご近所、TheSITEって？



京都精華大学、株式会社フラットエージェンシーによって開設されたカフェやショップ、アトリエなどが入居する複合施設です。「在り」から300m程度の距離にあります。今年の10月1日には「おいしい旅のマーケット」というイベントも開催され、話題のコーヒー店やお菓子、パン、雑貨店などが集まり、たくさんの方で賑わっていました。元々は美術学校の校舎だったこの施設。共用工作室や貸しギャラリーも備えられており、多様なジャンルのクリエイターが活動する芸術・文化の新拠点。入居者以外の方でも利用できる展示スペースもあります。

展示スペースについてのお問い合わせ
(株)フラットエージェンシー本店 TEL:075-411-0669

「在り」オーナーが経営する若竹寮って？



若竹寮は、元々はオーナーである渡邊さんの祖父母が「住む家に困っている留学生のために学生寮を建て、日本の父母になろう」という思いから始まったそうです。現在もその思いを受け継ぎ、左京区中南部にある貸室の多くを留学生向けに貸し出しをされています。寮の老朽化が進んできたこともあって、数年前からリノベーションを実施。左京区に愛着を持ち、そこでの暮らしに心地よさを感じている渡邊さんは、風土や環境など地域の特性を活かし、京都の古民家の良さが残る面白さや味わいを感じる建物を目指し「在り」を手がけられたそうです。「在り」は現在も入居者を募集中です。写真：長谷川健太

左京朝カフェって？



「左京朝カフェ」は、左京区ならではの地域力を活かした協働型まちづくりを進めるため、左京区でのまちづくりに興味・関心のある方々の出会い・交流の場として開催されています。今回の会では朝カフェの方にもご参加いただきました。朝カフェに参加する方が自分たちでやってみたいことなど、思いや夢を自由に語り合い、対話を通じて新しいつながりができ、自主的なまちづくり活動が始まることを目指しているそうです。現在は数ヶ月に一度、テーマを設定して左京区総合庁舎などで朝カフェを実施。12月3日は「国際交流」、来年の3月4日は「文化」がテーマとのこと。



左京東部 お祭りレポート #02 「復活！錦林盆踊り大会 2017」

7月30日(日)「復活！錦林盆踊り大会 2017」が開催されました。2015年に復活を遂げ、気がつけば今回で3年目。高岸町自治会の屋台からいい香りが漂ってきます。そして吊り下げられた無数の提灯、中心に設置された色とりどりのオブジェ、華やかな浴衣に身を包んだ方々が会場を彩ります。3年間、荷物預かりを担当している私は今年もテントの下からお祭りを見守ります。音頭が始まり、辺りが徐々に暗くなってきました。そして踊りの輪が二重、三重と広がっていきます。はじめは江州音頭の正調を踊る方が多かったの

ですが、志賀國天寿さんの「錦林の踊りを踊りましょう」という掛け声と共に、少しずつ錦林の踊りが広がっていきました。そしておわりの頃には会場全体が錦林の踊りを。そのときの会場の一体感は、素晴らしいものでした。時折雨がぱらつく場面もありましたが、奇跡的に本降りにはならず、盛大なフィナーレを迎えることができました。会場には老若男女、そして外国からのお客さんも。帰り際、荷物を取りにこられる方々の充実した表情や感想にこちらも元気を頂きました。これからも末長く、このお祭りが続いていくことを願っています。(小川晶弘)

左京西部 お祭りレポート #03 「ようせい夏まつり」

8月19日に地域のお祭りとしては20年振りとなる「ようせい夏まつり」が実施されました。お天気にも恵まれ、700名ほどのお客さんが来場されていました。食べ物はエスニック系の料理あり、たこ焼きあり、あゆの塩焼きまで、とてもバラエティに富んだものでした。ただ、来場者が読めない状況のなかで控えめに用意した出店が多く、お祭り開始後もなく売り切れるお店が続出しました。来年開催するときは、全体的に多めに料理を準備する必要があります。

ステージの内容もバラエティに富み、時には舞台上に子供達が座っていたり、最後の盆踊りは老若男女、国籍も関係なくみんなで一緒に踊っておられたりと、自由で楽しい空間になっていました。準備段階から本番にかけて、今まで交流のなかった様々な方とお話をさせてもらいましたが、こういった繋がりをこれから活かせればと思います。左京西部いきいき市民活動センターのこれからの取り組みにも注目して頂ければ幸いです。(丸木伸洋)



レポート #04 「さきょーラ」



「さきょーラ音楽祭@白河総合支援学校 地域感謝祭」

日時：2017年11月11日(土) 13～15時
会場：京都市立白河総合支援学校

2017年第3回目は出張さきょーラ、白河特別支援学校が開催する地域感謝祭のステージで発表を行いました。センターに勤務する楽しみのひとつは、音楽、ダンス、演劇によるさまざまな楽器やセリフ、物音が事務所まで聞こえてくること。時には、すべてが同時進行する時間が生まれ、廊下を歩くだけでライブハウスや芝居小屋を巡っているような感触を味わうこともあります。ですが利用者にとっては、お互いの声や楽器の音が聞こえても何をしているの

かがわからないもの。そこで当センター利用者の発表&交流の場として、「さきょーラ音楽会」を開催しています。日頃の練習の成果発表&交流という目的のこのイベントですが、ここで生まれた関係が今度は別の場所で、例えば地域楽団(オーケストラ)のような形で一緒に活動するきっかけになれば・・・という目的もあり「左京区+オーケストラ=さきょーラ」という名前をつけました。今回は来年秋頃の予定です。(スズキキヨシ)

インフォメーション #05 「思い出語り」



「わたしの居場所 ～家まつわる物語～ エピソードと写真展」

日時：2017年12月9日(土)～25日(水)
会場：左京東部いきいき市民活動センター

お問い合わせ：075-761-1385
料金無料・申込不要

異世代間交流を目的とした、思い出話の聞き取り事業をおこないます。「家・居場所」をテーマに、かつてのお住まいの思い出や、現在の自分にとって居心地のいい場所についてシニア世代にお話を伺います。今回は大谷大学社会学部とチームを組んで事業を進めています。6月には授業の一環として、これまでの展示に語り手として参加されたシニア世代に、学生が展示内容から気になったことを質問として投げかけ、シニア

の方の思い出話を傾聴するという機会を得ました。この体験を活かして10月に学生が聞き取りと展示文章の編集をおこないます。12月には、お聞きしたお話しと語り手の写真をまとめた展示会を当センターで実施予定です。ぜひご来場ください。(稲葉俊介)

#06 編集後記

今回は左京西部の通信と共同して、「左京区の間」をテーマにいきいき通信を作成しました。場について考えたとき、まず第一にアトリエ劇研の閉館が頭をよぎりました。そしてNPO劇研のこれからのことに思いを馳せ、まずは新たな事務所である「在り」を中心に紙面を考えていこうと思立ちました。進める中で、アトリエ劇研という場の存在がどれだけ大きかったのか気付かされました。そしてそれとともに、これからどんな一歩が踏み出せるのか楽しみにもなりました。次回のいきいき通信は、さらに「左京区の間」について思案するところから出発したいと思います。(沢大洋)



左京東部いきいき市民活動センター

〒606-8432 京都府京都市左京区鹿ヶ谷高岸町3-2
TEL：075-761-1385 FAX：075-752-3350

MAIL：info@se-ikiiki.com URL：http://gekken.net/SE_IKI/

開館時間：10時～21時(日曜日は17時まで) 休館日：火曜日・年末年始(12/29～1/4)
アクセス：京都市営地下鉄 蹴上駅より徒歩15分 バス停「東天王町」より徒歩5分
※駐車場はございませんので、公共交通機関もしくは最寄りのコインパーキングをご利用ください。

発行：左京東部いきいき市民活動センター 発行日：平成29年12月6日
編集長：沢大洋 デザイン：小川晶弘